

第 1 章

概 要

注) 単位未満は四捨五入しているため、合計の数字と内訳は必ずしも一致しない。

第1 人口動態の概要

青森県の令和3年の出生、死亡、自然増減、死産、周産期死亡、婚姻及び離婚の概要は表1に示すとおりである。

表1 人口動態の年間発生件数（青森県）

区分	実数			率			平均発生間隔	
	令和3年	令和2年	対前年比	令和3年	令和2年	対前年比	令和3年	令和2年
出生	6,513	6,837	△ 324	5.4	5.5	△ 0.1	1° 20' 42"	1° 17' 05"
死亡	18,785	17,905	880	15.4	14.5	0.9	27' 59"	29' 26"
乳児死亡	11	18	△ 7	1.7	2.6	△ 0.9	796° 21' 49"	488° 00' 00"
新生児死亡	3	15	△ 12	0.5	2.2	△ 1.7	2920° 00' 00"	585° 36' 00"
自然増減	△ 12,272	△ 11,068	△ 1,204	△ 10.1	△ 9.0	△ 1.1	…	…
死産	150	145	5	22.5	20.8	1.7	58° 24' 00"	60° 34' 46"
自然死産	78	87	△ 9	11.7	12.5	△ 0.8	112° 18' 28"	100° 57' 56"
人工死産	72	58	14	10.8	8.3	2.5	121° 40' 00"	151° 26' 54"
周産期死亡	25	32	△ 7	3.8	4.7	△ 0.9	350° 24' 00"	274° 30' 00"
妊娠満22週以後の死産	23	17	6	3.5	2.5	1.0	380° 52' 10"	516° 42' 00"
早期新生児死亡	2	15	△ 13	0.3	2.2	△ 1.9	4380° 00' 00"	585° 36' 00"
婚姻	3,736	4,032	△ 296	3.1	3.3	△ 0.2	2° 20' 41"	2° 10' 43"
離婚	1,783	1,915	△ 132	1.47	1.55	△ 0.08	4° 54' 47"	4° 35' 13"
区分	令和3年	令和2年						
合計特殊出生率	1.31	1.33						

(全国)

区分	実数			率			平均発生間隔	
	令和3年	令和2年	対前年比	令和3年	令和2年	対前年比	令和3年	令和2年
出生	811,622	840,832	△ 29,210	6.6	6.8	△ 0.2	00' 39"	00' 38"
死亡	1,439,856	1,372,648	67,208	11.7	11.1	0.6	00' 22"	00' 23"
乳児死亡	1,399	1,512	△ 113	1.7	1.8	△ 0.1	6° 15' 42"	5° 48' 34"
新生児死亡	658	704	△ 46	0.8	0.8	0.0	13° 18' 47"	12° 28' 38"
自然増減	△ 628,234	△ 531,816	△ 96,418	△ 5.1	△ 4.3	△ 0.8	…	…
死産	16,277	17,286	△ 1,009	19.7	20.1	△ 0.4	32' 17"	30' 29"
自然死産	8,082	8,192	△ 110	9.8	9.5	0.3	1° 5' 02"	1° 4' 20"
人工死産	8,195	9,094	△ 899	9.9	10.6	△ 0.7	1° 4' 08"	57' 57"
周産期死亡	2,741	2,674	67	3.4	3.2	0.2	3° 11' 45"	3° 17' 06"
妊娠満22週以後の死産	2,235	2,122	113	2.7	2.5	0.2	3° 55' 10"	4° 8' 22"
早期新生児死亡	506	552	△ 46	0.6	0.7	△ 0.1	17° 18' 44"	15° 54' 47"
婚姻	501,138	525,490	△ 24,352	4.1	4.3	△ 0.2	01' 03"	01' 00"
離婚	184,384	193,251	△ 8,867	1.50	1.57	△ 0.07	02' 51"	02' 44"
区分	令和3年	令和2年						
合計特殊出生率	1.30	1.33						

注:1) 青森県の基礎人口は令和3年が1,216,000人、令和2年が1,232,227人である。

注:2) 全国の基礎人口は令和3年が122,780,487人、令和2年が123,398,962人である。

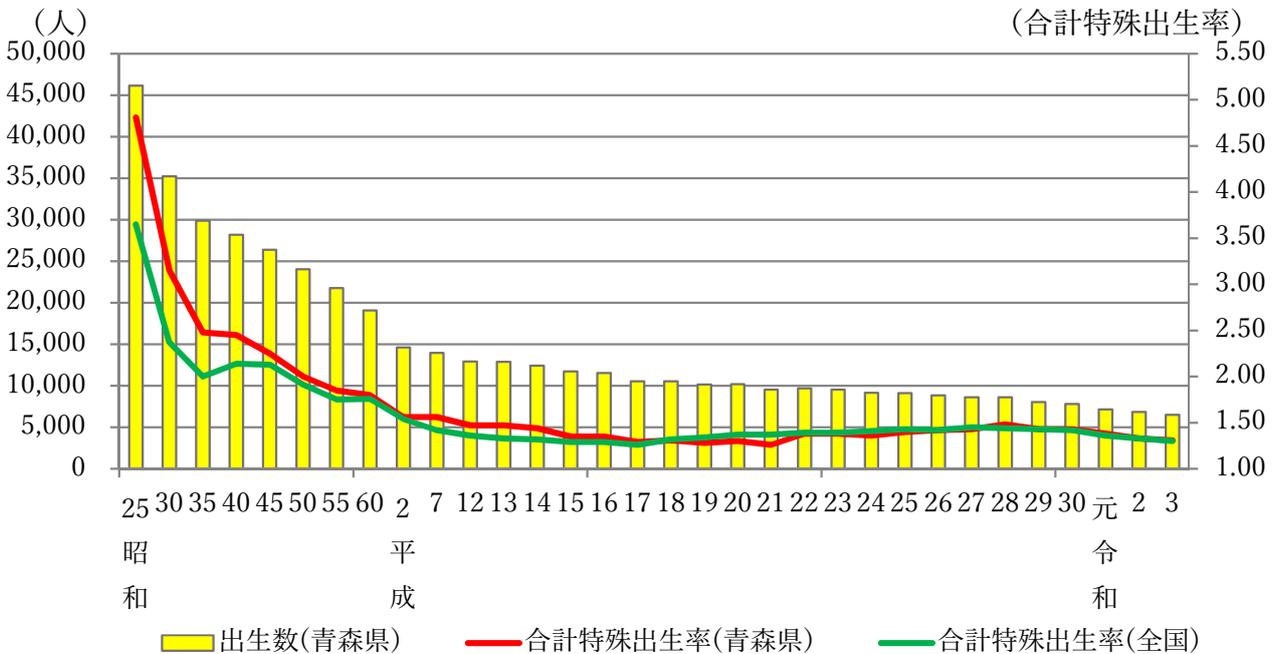
注:3) 用語の説明及び比率の算出方法については、第2章人口動態統計「利用上の注意」を参照されたい。

1 出生

(1) 概況及び年次推移

出生数及び合計特殊出生率は、年々減少・低下傾向にあり、令和3年の出生数は6,513人で、前年の6,837人より324人減少し、過去最少となった。また、令和3年の合計特殊出生率は1.31で、前年の1.33を0.02ポイント下回り、全国の1.30を0.01ポイント上回った。(表1、図1)

図1 出生数及び合計特殊出生率の年次推移



(2) 地域別出生

令和3年の市部の出生数は5,296人、町村部は1,217人であり、出生率(人口千対)は市部が5.6で郡部の4.5を1.1ポイント上回っている。

詳細は第2章第6表に記載されているので、参照されたい。

(3) 出生順位と母の年齢

令和3年に出生した子(死産を除く)が、子の母の何番目の子に該当するかを表す、出生順位別出生数の構成比は、第1子が42.9%、第2子が35.9%、第3子以上が21.3%となっており、第1子と第2子で全体の約8割を占めている。(第2章第8表参照)

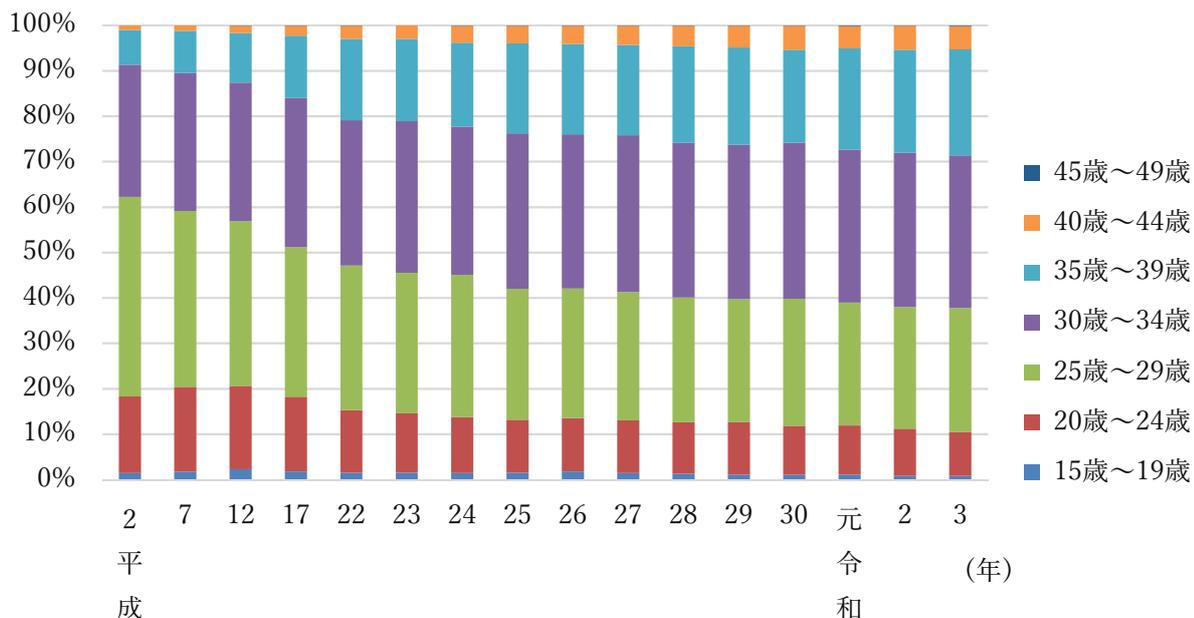
また、令和3年における母の年齢階級別出生の構成比をみると、30歳から34歳が33.6%で最も高く、次いで25歳から29歳が27.2%となっている。(表2)

表2 母の年齢階級別出生の構成比

(単位：%)

母の年齢	H 2	7	12	17	22	23	24	25	26	27	28	29	30	R 1	2	3
15歳～19歳	1.4	1.7	2.3	1.8	1.5	1.5	1.4	1.5	1.8	1.4	1.3	1.1	1.1	1.1	0.8	0.8
20歳～24歳	16.9	18.7	18.3	16.4	13.8	13.1	12.3	11.7	11.7	11.6	11.3	11.5	10.7	10.8	10.4	9.7
25歳～29歳	43.9	38.7	36.3	33.0	31.8	30.9	31.4	28.8	28.6	28.3	27.5	27.1	28.0	27.1	26.8	27.2
30歳～34歳	29.1	30.4	30.5	32.8	32.0	33.4	32.6	34.3	34.0	34.5	34.1	33.9	34.4	33.7	34.0	33.6
35歳～39歳	7.7	9.3	10.9	13.7	17.9	18.1	18.5	19.8	19.9	19.9	21.3	21.4	20.4	22.3	22.7	23.3
40歳～44歳	1.0	1.2	1.6	2.2	2.9	3.0	3.7	3.9	4.0	4.2	4.5	4.8	5.3	4.9	5.3	5.1
45歳～49歳	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	0.1	0.2

図2 母の年齢階級別出生の構成比

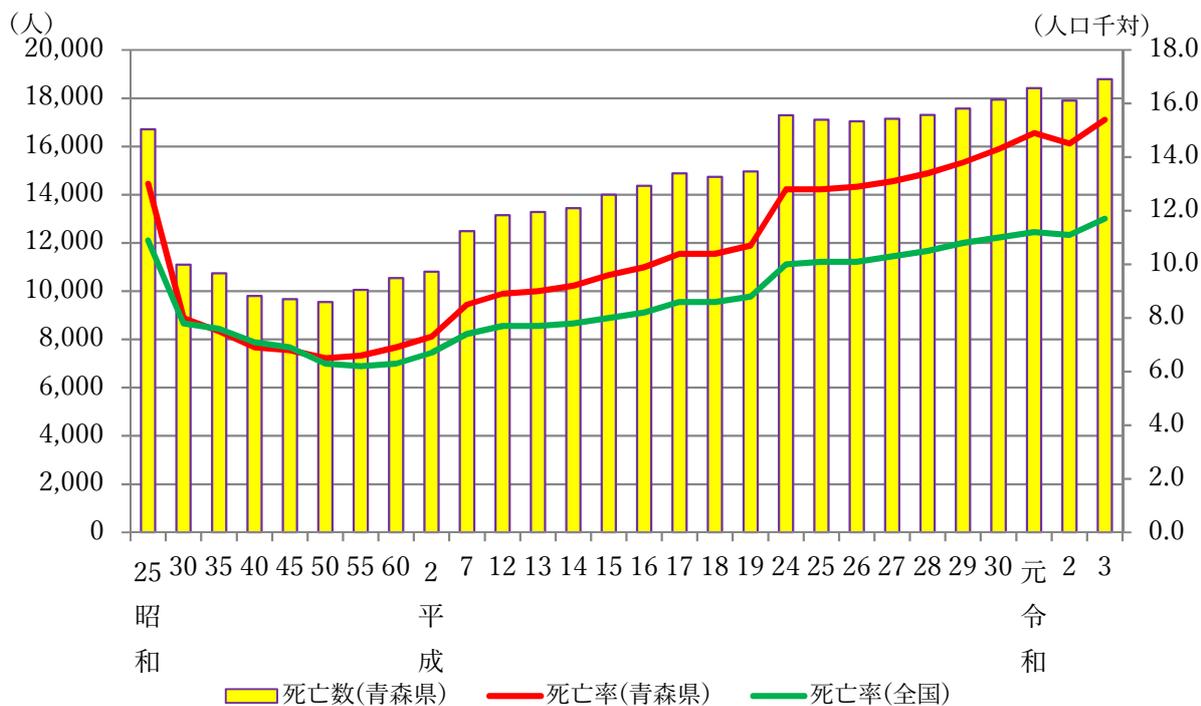


2 死亡

(1) 概況及び年次推移

死亡数及び死亡率（人口千対）は昭和60年代前半以降、年々増加・上昇傾向にあり、令和3年の死亡数は18,785人で、前年の17,905人より880人増加、死亡率は15.4で、前年の14.5を0.9ポイント上回り、死亡数・死亡率ともに戦後最大となった。また、死亡率は全国の11.7を3.7ポイント上回った。（表1、図3）

図3 死亡数及び死亡率の年次推移



(2) 地域別死亡

令和3年の市部の死亡数は13,964人、町村部は4,821人であり、死亡率（人口千対）は市部が14.6で郡部の18.0を3.4ポイント下回っている。

詳細は第2章第13表に記載されているので、参照されたい。

(3) 主要死因

令和3年の死因第1位は悪性新生物で、死亡数5,135人、死亡率（人口10万対）は422.3となった。第2位は心疾患で、死亡数2,810人、死亡率231.1、第3位は老衰で、死亡数1,801人、死亡率148.1、第4位は脳血管疾患で、死亡数1,496人、死亡率123.0となった。（表3）

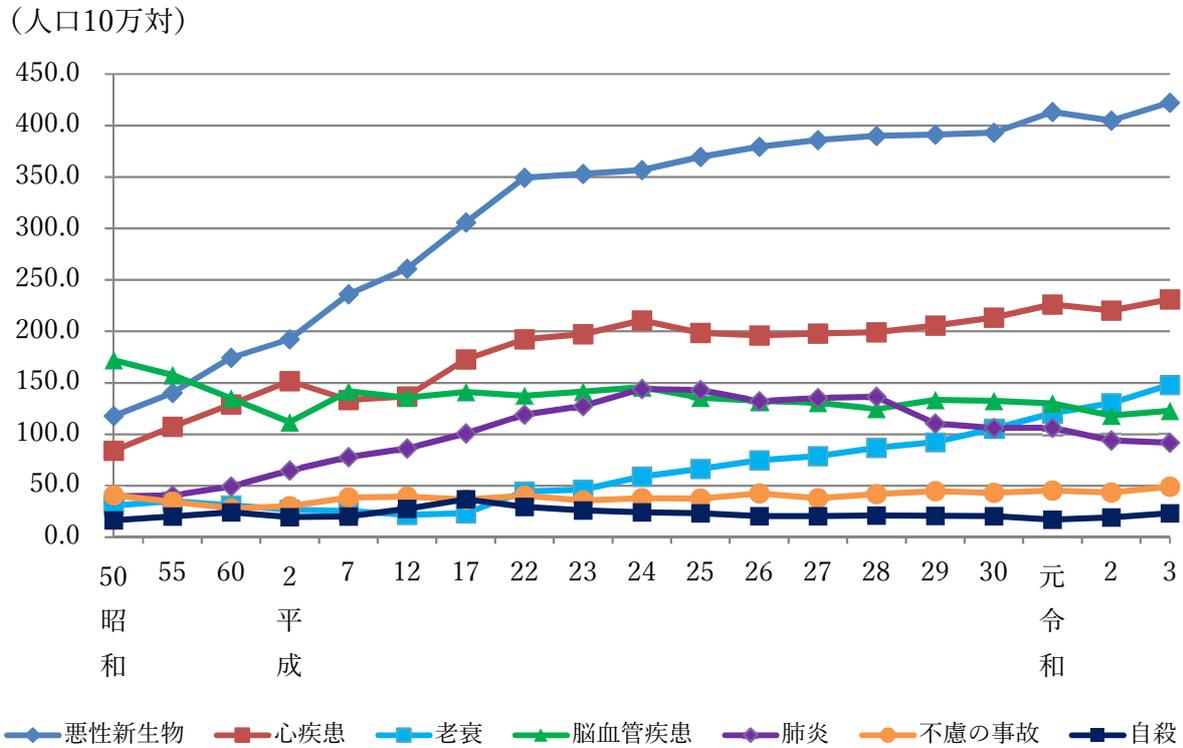
表3 死因順位別死亡数、死亡率（人口10万対）

（前年比較・全国比較）

死 因	青 森 県				全 国	
	令 和 3 年		令 和 2 年		令 和 3 年	
	死 亡 数	率	死 亡 数	率	死 亡 数	率
死 亡 総 数	18,785	1,544.8	17,905	1,453.1	1,439,856	1,172.7
悪 性 新 生 物	5,135	422.3	4,988	404.8	381,505	310.7
心 疾 患	2,810	231.1	2,714	220.3	214,710	174.9
老 衰	1,801	148.1	1,606	130.3	152,027	123.8
脳 血 管 疾 患	1,496	123.0	1,455	118.1	104,595	85.2
肺 炎	1,118	91.9	1,160	94.1	73,194	59.6
不 慮 の 事 故	597	49.1	534	43.3	38,355	31.2
誤 嚥 性 肺 炎	468	38.5	387	31.4	49,488	40.3
ア ル ツ ハ イ マ ー 病	453	37.3	381	30.9	22,960	18.7
血 管 性 及 び 詳 細 不 明 の 認 知 症	453	37.3	387	31.4	22,343	18.2
腎 不 全	423	34.8	398	32.3	28,688	23.4

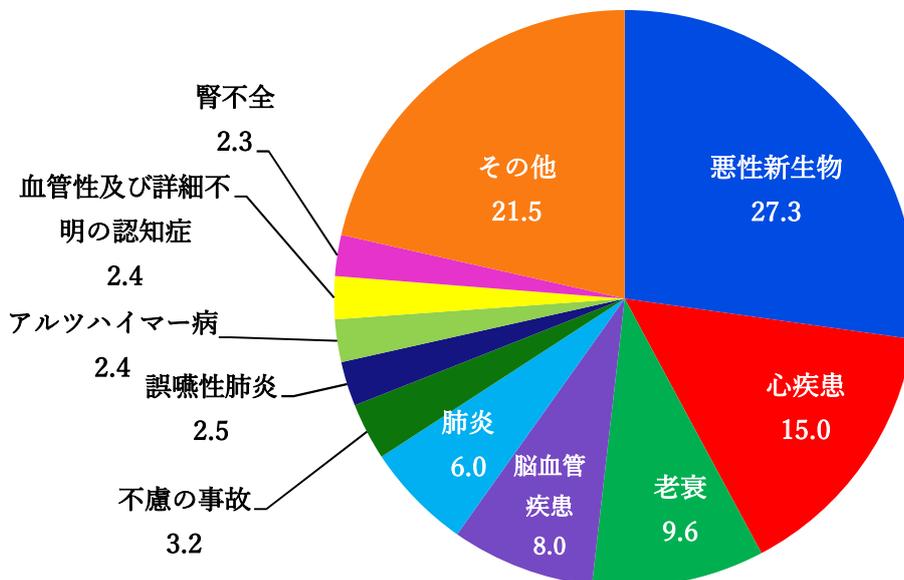
年次推移をみると、概ね平成2年以降「悪性新生物」が死因第1位、「心疾患」が第2位、第3位は「脳血管疾患」又は「肺炎」となっていたが、令和2年以降は2年連続で「老衰」が第3位となった。(図4)

図4 主要死因別死亡率の年次推移



令和3年の死因ごとの構成比をみると、悪性新生物が27.3%、心疾患が15.0%、老衰が9.6%と続き、これら3つの死因で全体の51.9%（前年52.0%）を占めている。(図5)

図5 主な死因の構成比 (%)



令和3年の年代別死因順位をみると、10歳代から30歳代までは、自殺が死因第1位であり、40歳代から80歳代までは、悪性新生物が死因第1位となっている。(表4)

表4 年代別死因順位、実数

年代	総数 (実数)	1位	2位	3位
0～9歳	14	先天奇形，変形及び染色体異常 5	周産期に発生した病態 3	心疾患、不慮の事故 1
10～19歳	15	自殺 8	不慮の事故 3	心疾患 2
20～29歳	51	自殺 33	不慮の事故 6	悪性新生物 3
30～39歳	102	自殺 28	悪性新生物 24	心疾患 15
40～49歳	260	悪性新生物 83	自殺 46	心疾患 31
50～59歳	583	悪性新生物 230	心疾患 75	脳血管疾患、自殺 53
60～69歳	1,688	悪性新生物 790	心疾患 185	脳血管疾患 118
70～79歳	3,745	悪性新生物 1,558	心疾患 420	脳血管疾患 280
80～89歳	7,041	悪性新生物 1,798	心疾患 1,063	脳血管疾患 550
90～99歳	4,976	老衰 1,068	心疾患 971	悪性新生物 638
100歳～	310	老衰 136	心疾患 46	脳血管疾患 29

3 乳児死亡、新生児死亡及び周産期死亡

(1) 乳児死亡

令和3年の乳児死亡数は11人で、前年の18人より7人減少した。乳児死亡率（出生千対）は1.7で、前年の2.6を0.9ポイント下回り、全国の1.7と同値であった。（表1、図6）

死亡の原因の内訳をみると、「周産期に発生した病態」、「先天奇形、変形及び染色体異常」が多い。（表5）

図6 乳児死亡数及び乳児死亡率の年次推移

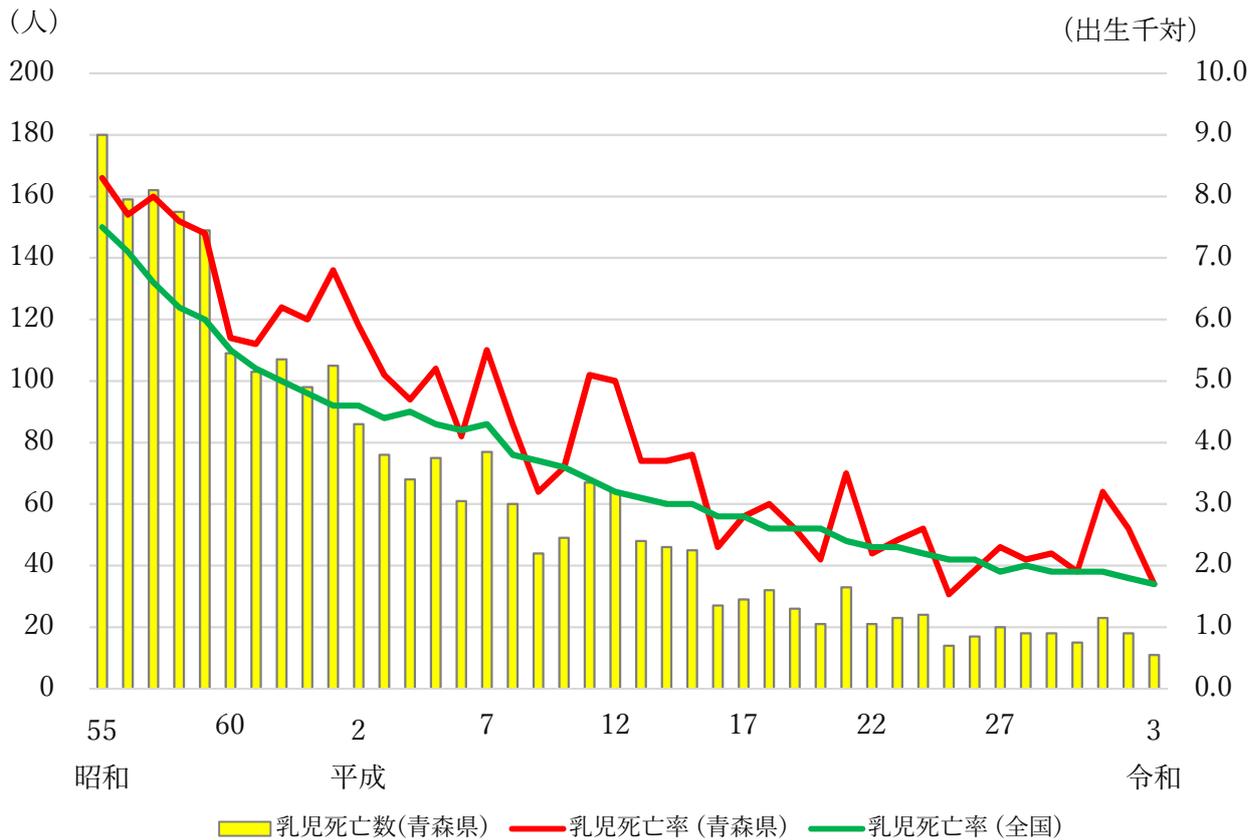


表5 乳児死亡の内訳の年次推移

死亡の内訳	平成27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年
総計	20	18	18	15	23	18	11
周産期に発生した病態	7	6	6	5	12	10	3
先天奇形、変形及び染色体異常	7	5	7	7	3	5	4
乳幼児突然死症候群	1	-	-	-	2	1	-
その他	5	7	5	3	6	2	4

(2) 新生児死亡

令和3年の新生児死亡数は3人で、前年の15人より12人減少した。新生児死亡率（出生千対）は0.5で、前年の2.2を1.7ポイント下回り、全国の0.8を0.3ポイント下回った。（表1、図7）

図7 新生児死亡数及び新生児死亡率の年次推移

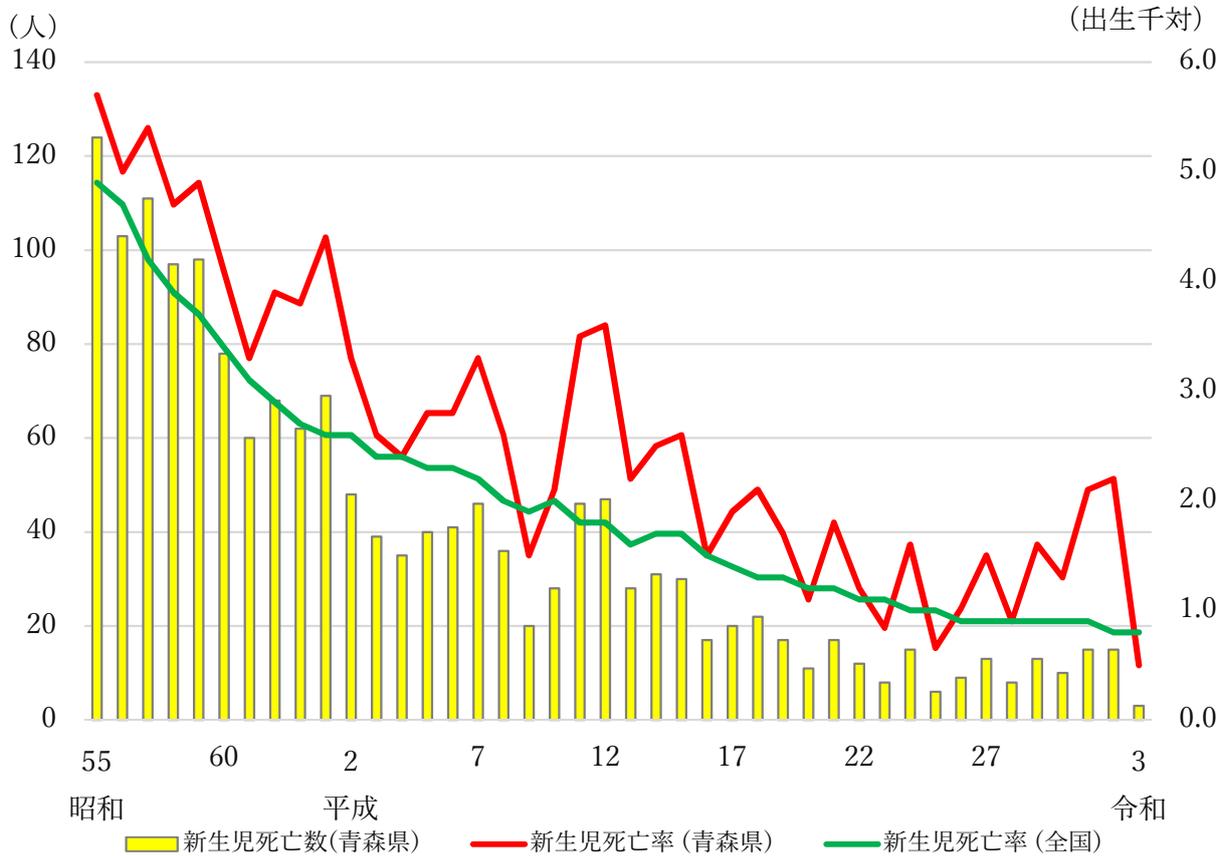


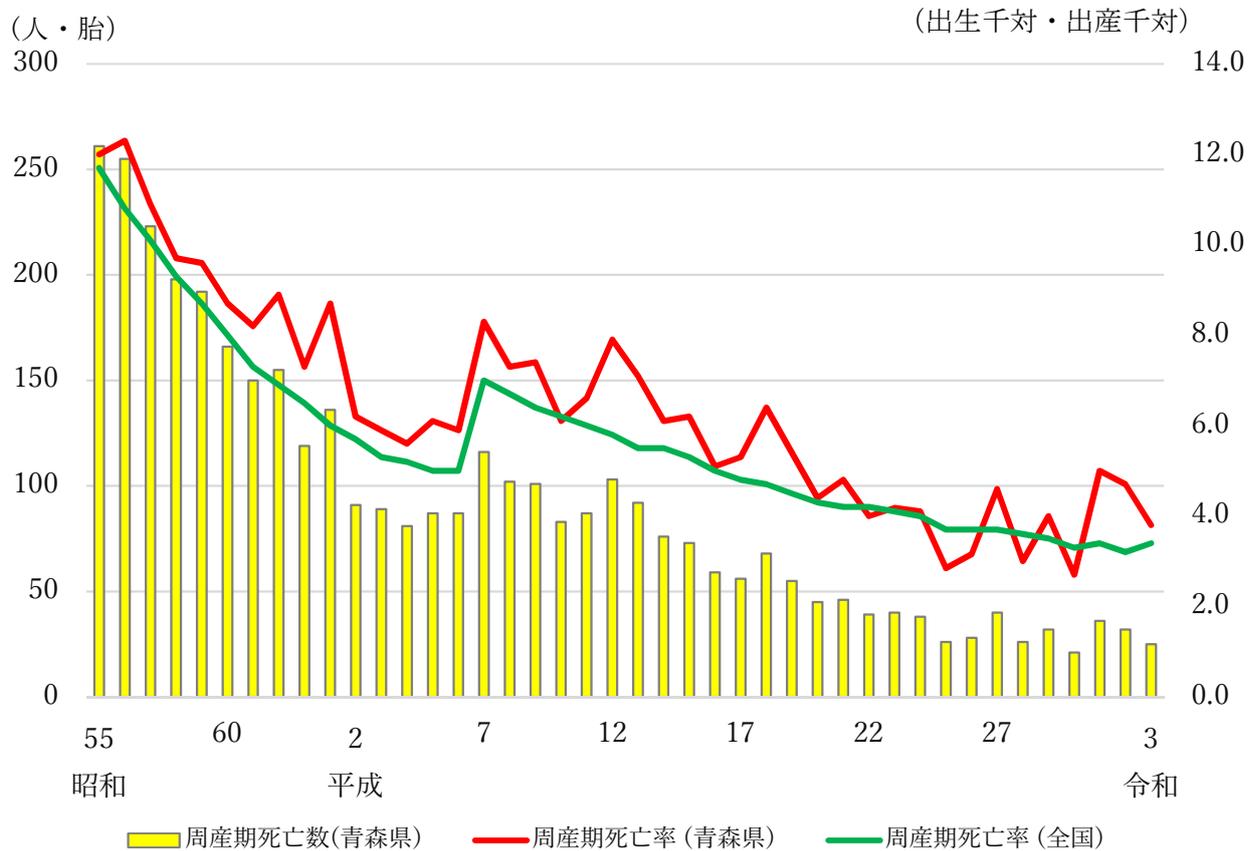
表6 新生児死亡の内訳の年次推移

死因の内訳	平成27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年
総計	13	8	13	10	15	15	3
周産期に発生した病態	7	6	6	4	12	10	1
先天奇形、変形及び染色体異常	5	2	4	5	3	5	1
乳幼児突然死症候群	-	-	-	-	-	-	-
その他	1	-	3	1	-	-	1

(3) 周産期死亡

令和3年の周産期死亡数は25件（妊娠満22週以後の死産23胎、早期新生児死亡2人）で、前年の32件（同17胎、同15人）より7件（同6胎増、同13人減）減少した。周産期死亡率（出産（出生+妊娠満22週以後の死産）千対）は3.8で、前年の4.7を0.9ポイント下回り、全国の3.4を0.4ポイント上回った。（表1、図8）

図8 周産期死亡数及び周産期死亡率の年次推移



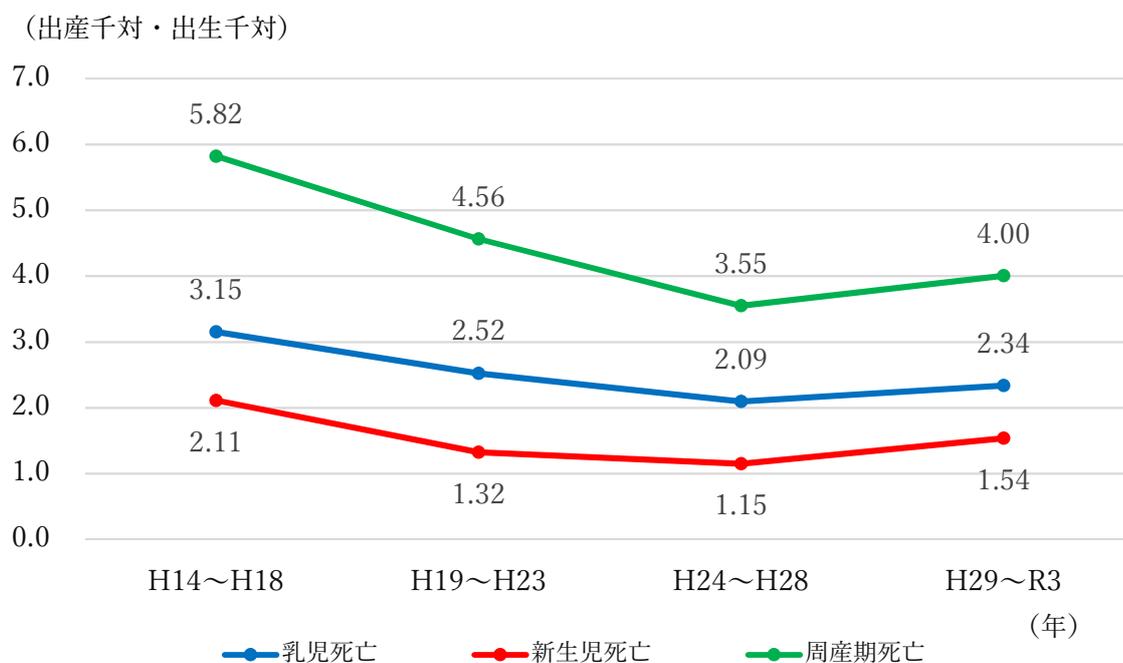
※ 周産期死亡については、死亡数、死亡率の算定方法が平成6年以前と平成7年以降では異なっている。

	死亡数	死亡率
平成6年以前	妊娠満28週以後死産 + 早期新生児	出生千対
平成7年以降	妊娠満22週以後死産 + 早期新生児	出産千対（出生+妊娠満22週以後死産）

(4) 5か年比較

乳児死亡、新生児死亡、周産期死亡とも対象数が少ないため実数1件の増減による死亡率への影響が大きいことから、それぞれの死亡率を5年単位で比較すると、平成29年から令和3年単位では、乳児死亡、新生児死亡及び周産期死亡のいずれについても平成24年から平成28年単位よりも増加した。(図9)

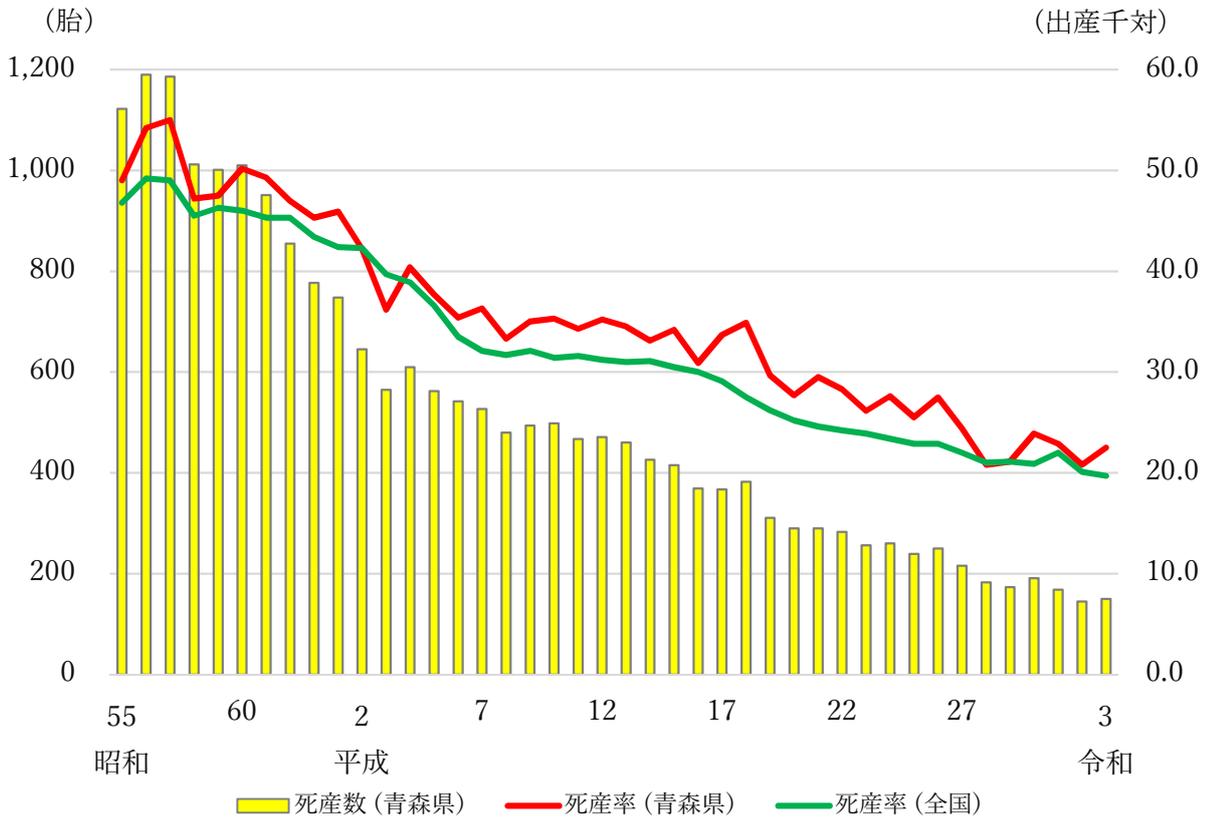
図9 乳児死亡率・新生児死亡率・周産期死亡率の5か年比較（年次推移）



4 死産

死産数及び死産率（出産（出生＋死産）千対）は減少・低下傾向にあるが、令和3年の死産数は150胎（自然死産78胎、人工死産72胎）で、前年の145胎（同87胎、同58胎）より5胎（同9胎減、同14胎増）増加した。死産率は22.5で、前年の20.8を1.7ポイント上回り、全国の19.7を2.8ポイント上回った。（表1、図10）

図10 死産数及び死産率の年次推移

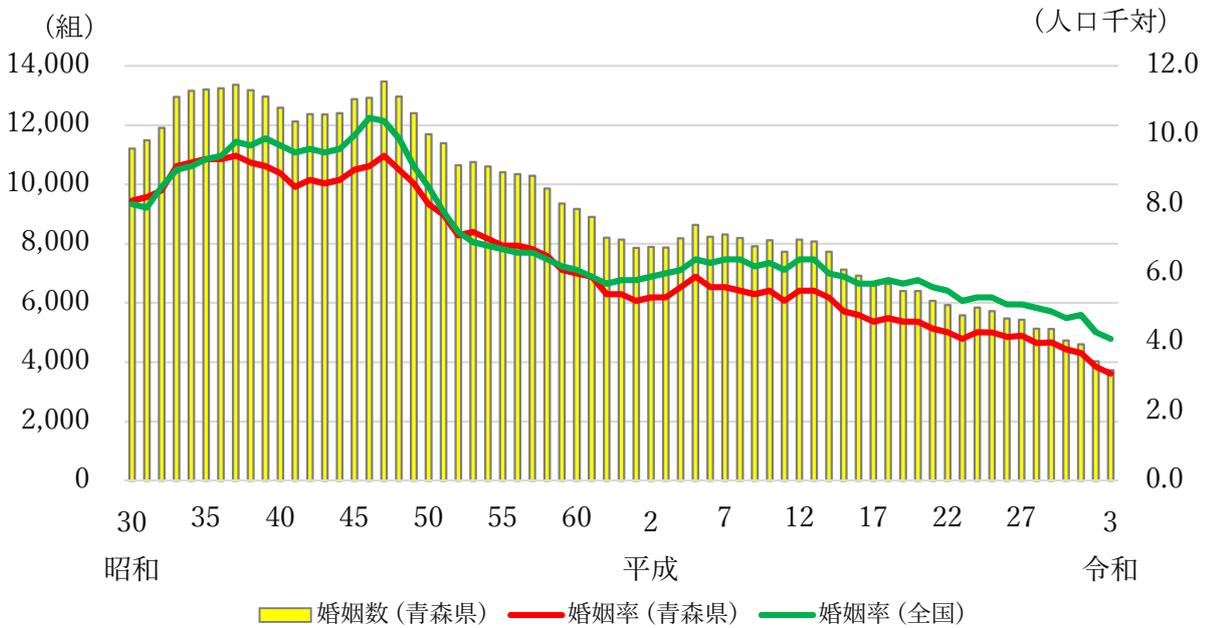


5 婚姻

(1) 概況及び年次推移

婚姻件数及び婚姻率（人口千対）は減少・低下傾向にあり、令和3年の婚姻件数は3,736組で、前年の4,032組より296組減少、婚姻率は3.1で、前年の3.3を0.2ポイント下回り、過去最少となった。また、婚姻率は全国の4.1を1.0ポイント下回った。（表1、図11）

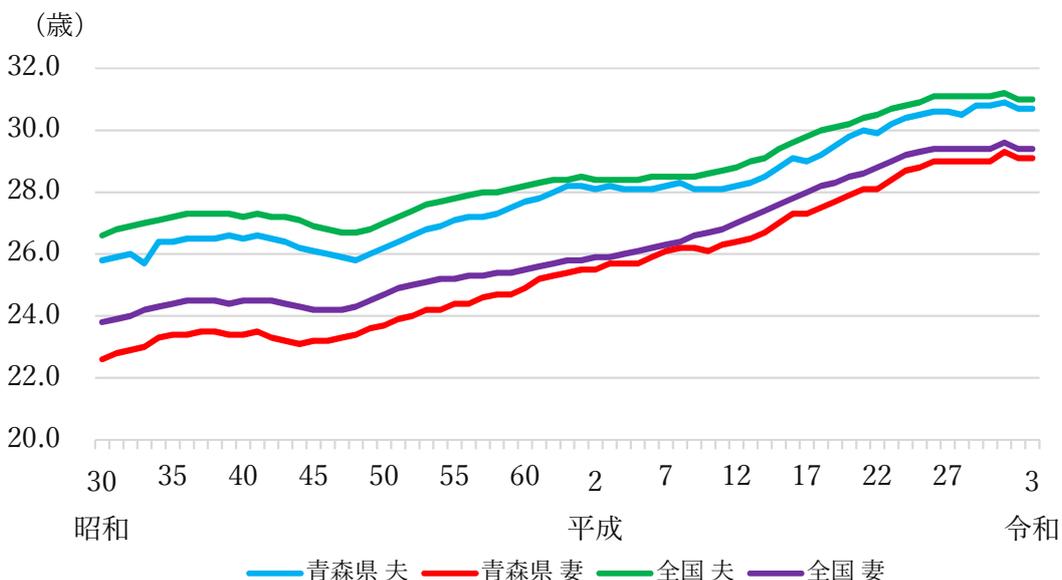
図11 婚姻件数及び婚姻率の年次推移



(2) 平均初婚年齢

平均初婚年齢は男女ともに年々上昇しており、令和3年の平均初婚年齢は、男性が30.7歳（全国31.0歳）、女性が29.1歳（全国29.4歳）で、男性・女性ともに前年と同値であった。（図12）

図12 平均初婚年齢の年次推移

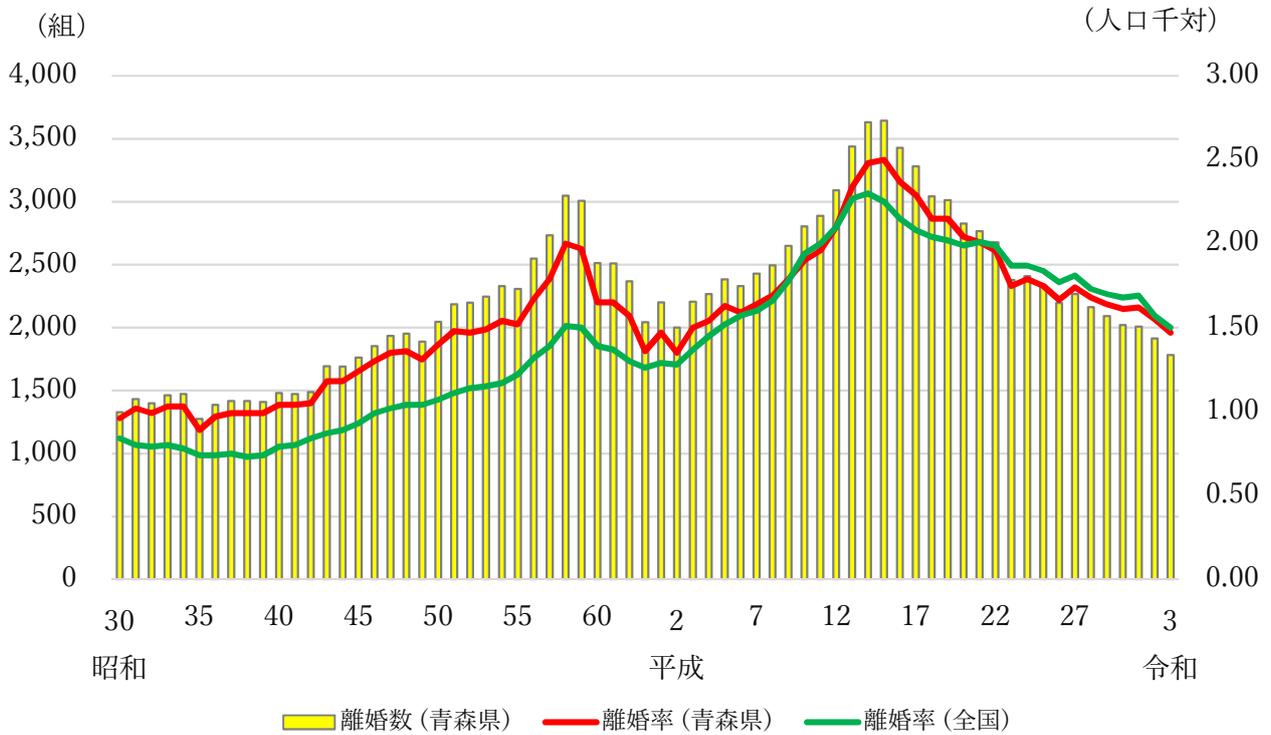


6 離婚

(1) 概況及び年次推移

離婚件数及び離婚率（人口千対）は減少・低下傾向にあり、令和3年の離婚件数は1,783組で、前年の1,915組より132組減少した。離婚率（人口千対）は1.47で、前年の1.55を0.08ポイント下回り、全国の1.50を0.03ポイント下回った。（表1、図13）

図13 離婚数及び離婚率の年次推移



(2) 離婚した夫婦の同居期間

令和3年の離婚件数1,783組のうち、結婚5年未満で離婚した件数の構成比は29.7%で最も多く、次いで20年以上の24.8%、5～10年の21.0%の順となっている。（表7）

表7 離婚件数、同居期間別構成比

(単位：%)

同居期間	27年	28年	29年	30年	R1年	2年	3年
0～5年	29.8	32.1	33.2	31.5	31.3	29.8	29.7
1年未満	5.8	4.9	6.2	5.6	6.1	4.6	4.5
1～2年	7.2	6.4	7.1	6.9	6.9	6.8	7.1
2～3年	7.7	6.8	7.4	6.8	6.9	7.3	6.6
3～4年	5.8	6.0	6.9	6.1	5.4	5.9	4.9
4～5年	5.6	5.0	5.6	6.1	5.9	5.3	6.7
5～10年	21.3	19.1	19.0	20.0	19.4	18.2	21.0
10～15年	14.3	13.5	12.2	13.3	13.7	12.6	11.7
15～20年	11.1	10.6	11.1	11.5	11.4	10.5	9.5
20年以上	20.2	21.3	21.3	20.4	22.1	25.3	24.8
不詳	3.2	3.4	3.2	3.3	2.1	3.6	3.2

第2 医療統計の概要

1 医療施設

(1) 病院

令和3年10月1日現在の病院数は93施設で、前年の94施設から1施設減少した。人口10万対では7.6で、前年と同値であり、全国の6.5を1.1ポイント上回った。

病院数は、昭和58年の124施設をピークにその後減少傾向にある。(図1)

(2) 一般診療所

令和3年10月1日現在の一般診療所数は870施設で、前年の862施設から8施設増加した。人口10万対では71.3で、前年の69.6を1.7ポイント上回り、全国の83.1を11.8ポイント下回った。

一般診療所のうち、有床診療所は125施設で、前年の130施設から5施設減少し、診療所全体の約14.4%（全国5.9%）となっている。

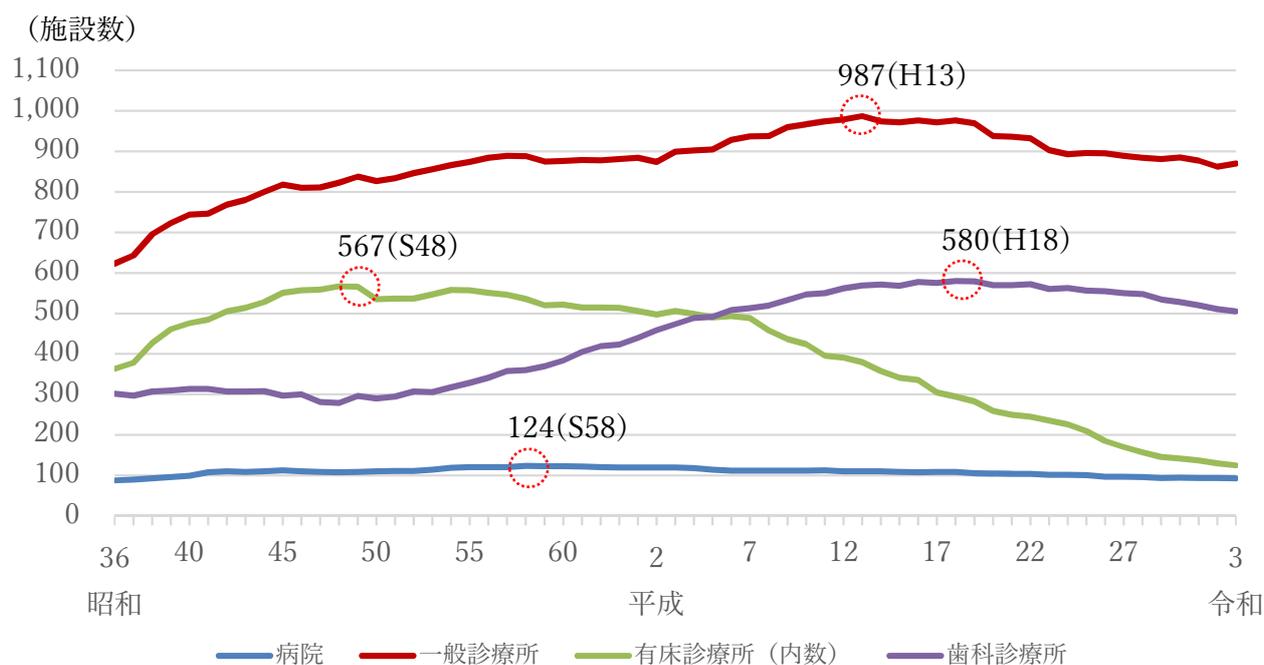
総数は平成13年の987施設、有床診療所は昭和48年の567施設をピークにその後減少傾向にある。(図1)

(3) 歯科診療所

令和3年10月1日現在の歯科診療所数は505施設で、前年の511施設から6施設減少した。人口10万対では41.4で、前年の41.3を0.1ポイント上回り、全国の54.1を12.7ポイント下回った。

歯科診療所数は、平成18年の580施設をピークにその後減少傾向にある。(図1)

図1 医療施設数の年次推移



2 医師・歯科医師・薬剤師

(1) 医師

令和2年12月31日現在の医師数は2,773人であり、前回調査の平成30年(2,712人)から、61人増加している。また、人口10万対では224.0であり、前回(214.7)に比べ、9.3ポイント上回り、全国値である269.2を45.2ポイント下回った。(表1)

表1 医師数(実数、人口10万対)の年次推移

(単位:人)

区分		平成12年	14年	16年	18年	20年	22年	24年	26年	28年	30年	令和2年
青森県	医師数	2,516	2,564	2,522	2,561	2,563	2,636	2,639	2,681	2,702	2,712	2,773
	人口10万対	170.5	174.5	173.7	180.0	184.1	191.9	195.5	203.0	209.0	214.7	224.0
全国	医師数	255,792	262,687	270,371	277,927	286,699	295,049	303,268	311,205	319,480	327,210	339,623
	人口10万対	201.5	206.1	211.7	217.5	224.5	230.4	237.8	244.9	251.7	258.8	269.2

(2) 歯科医師

令和2年12月31日現在の歯科医師数は735人であり、前回調査の平成30年(740人)から、5人減少している。また、人口10万対では59.4であり、前回(58.6)に比べ、0.8ポイント上回り、全国値である85.2を25.8ポイント下回った。(表2)

表2 歯科医師数(実数、人口10万対)の年次推移

(単位:人)

区分		平成12年	14年	16年	18年	20年	22年	24年	26年	28年	30年	令和2年
青森県	歯科医師数	717	758	757	777	789	781	787	780	762	740	735
	人口10万対	48.6	51.6	52.1	54.6	56.7	56.9	58.3	59.0	58.9	58.6	59.4
全国	歯科医師数	90,857	92,874	95,197	97,198	99,426	101,576	102,551	103,972	104,533	104,908	107,443
	人口10万対	71.6	72.9	74.6	76.1	77.9	79.3	80.4	81.8	82.4	83.0	85.2

(3) 薬剤師

令和2年12月31日現在の薬剤師数は2,345人であり、前回調査の平成30年(2,306人)から、39人増加している。また、人口10万対では189.4であり、前回(182.6)に比べ、6.8ポイント上回り、全国値である255.2を65.8ポイント下回った。(表3)

表3 薬剤師数(実数、人口10万対)の年次推移

(単位:人)

区分		平成12年	14年	16年	18年	20年	22年	24年	26年	28年	30年	令和2年
青森県	薬剤師数	1,556	1,684	1,724	1,796	1,882	2,012	2,052	2,111	2,210	2,306	2,345
	人口10万対	105.4	114.6	118.7	126.2	135.2	146.5	152.0	159.8	170.9	182.6	189.4
全国	薬剤師数	217,477	229,744	241,369	252,533	267,751	276,517	280,052	288,151	301,323	311,289	321,982
	人口10万対	171.3	180.3	189.0	197.6	209.7	215.9	219.6	226.7	237.4	246.2	255.2